



# なごや「聖歌」だより 12月号'09

## 「新聖堂」成聖式にむけて 2

新聖堂の建設は順調に進んでおり、11月12日、塔の上にクーポールと十字架が挙げられました。十字架成聖の祈りを行い、聖水をかけたあと、十字架のトロパリを歌う中を、大きな十字架がクレーンでつりあげられてゆきました。鶴舞方面から歩いてくると、木々の間に銀色に光る十字架が見えます。

1月11日の成聖式に向けて、さまざまな準備が進んでいます。準備委員会が発足し、信徒の皆さんにも、受付、案内、運搬などといったいろいろなご奉仕の分担をお願いしています。「聖歌」も成聖式奉仕の役割のひとつとして、準備を始め、週に2回の練習を行っています。

名古屋教会は参拝者全員が参加する祈りを目指してきました。成聖式では全国から200人近い人が参拝すると予想されます。核となってこの大きな祈りをがっちり支えるのが聖歌隊の役割です。ひとりひとりが自信を持って、心を合わせて歌い、一つの祈りを顕します。何度も練習することで自信と一体感が得られます。近道はありません。



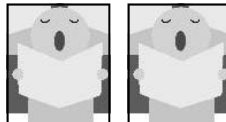
聖歌練習

### ♪名古屋

## 「新聖堂」成聖式の本格練習が始まりました。

平日にはパート練習をじっくり、主日には全体練習を中心に行っています。成聖式(青)、聖体礼儀(黄)、徹夜禱(ピンク)の各人用の楽譜が用意できました。練習時にお渡ししています。家での独習用にお役立てください。個人練習も役に立ちますが、聖歌はチームプレーです。練習に参加し、合わせるなかで磨かれます。歌って顕すためには内容の理解も大切です。次ページの解説もご参照ください。また主教祈禱は掛け合いが多いので、祈りの流れを知り、テンポを体得することも重要なポイントです。ご参加よろしくおねがいします。

降誕祭も合わせて練習します。



### ♪半田： 12月16日(水) 11:45ごろから

降誕祭の聖歌を練習します。

名古屋で聖歌を歌われる方も多いため、4声の聖歌練習も行います。また、名古屋の成聖式の聖歌に参加を希望される方は、名古屋での練習にもご参加ください。

### —12月の練習日程—

- 12月1日(火) 13:00から
- 6日(日) 聖体礼儀後
- 9日(水) 13:00から
- 13日(日) 聖体礼儀後、少々
- 15日(火) 13:00から
- 20日(日) 代式後、11時頃から
- 23日(水、祝) 13:00から
- 27日(日) 聖体礼儀後
- 1月3日(日) 聖体礼儀後
- 1月6日(水) 13:00から(予定)

### 12月の指揮当番

- 6日 ビーメン松島 13日 エレナ広石
- 24日(降誕祭) エレナ広石、ビーメン松島
- 27日 マリア松島

## ズナメニイ研究会 紹介

12月と1月は成聖式準備のためお休み

# 聖堂成聖式 その2 不朽体の嵌入

先月号でご紹介した成聖式前半は、『宝座』すなわち聖体礼儀で捧げ物をする祭壇成聖の儀式でした。今回お話しする後半部分は、不朽体（聖人の遺体の一部）を運び、宝座中央にしつらえられた柱におさめる儀式です。

昔、教会は信仰のために生命をかけた致命者（殉教者）の墓の上に建てられました。聖体礼儀で司祭が必ず用いるアンティミンス（宝座に広げる小さなテーブルクロスのような物）にも不朽体の一部が縫い込まれています。多くの聖人たち、祖先たちは命がけで信仰を守ってきました。私たちのこの新聖堂も、その連鎖の中にあります。教会は致命者の血の上に建てられ、その教会のあるじは万物の主、光栄の主であることが高らかに宣言されます。



主教は王門を出て不朽体に炉儀。もともとは十字行を行って近隣教会まで不朽体を取りに行く儀式だが、近年はイコノスタスの主の聖像の前に安置しておく。

## 【トロパリ4調】

ハリストス神よ、全世界にある爾が致命者の血にて、紅の美服の如く飾られたる爾の教会は、彼らを以て爾に呼ぶ、爾の民に恩澤を降し、爾の住居に平安を与え、我等の霊に大なる憐れみを垂れ給え。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世にアミン

## 【コンダク8調】

主よ、全世界は捧神なる致命者を、萬物の初実（はつもの）として、爾萬物を植え付けし者に奉る。大仁慈なる者よ、彼等及び生神女の祈祷によりて爾の住所（すまい）なる爾の教会を深き平安に守り給え。

## 【小連祷】

「聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐れめよ」3回



（口語訳）

## 【トロパリ】

ハリストス神よ、全世界にある教会は、あなたの殉教者の血、紅の美しい服で飾られています。（私たちは）彼ら（の祈り）によって、呼び呼びます。「あなたの民に豊かな恩寵をくだし、あなたの住まい（である教会）に平安を与え、私たちのたましいに大きな憐れみを与えてください。

## 【コンダク】

主よ、全世界は、自らを神に捧げた致命者を万物の初物としてあなたに献げます。あなたは万物を植え付けた方です。憐れみ深い主よ、致命者たちと生神女の祈祷によって、あなたの住まいである、あなたの教会に深い平安を与えてください。



十字行を行う。凱旋旗、聖堂の聖像、聖歌隊、司祭、ロウソク、杖、ミトラ、長輔祭、輔祭は不朽体と主教を炉儀。ディスコスの上にリピダをかかげる。主教の前に副輔祭はディキリ、トリキリを持つ。反時計回りで一周。

## 【トロパリ】第3調歌う

信の石に爾の教会を建てし仁慈の主よ、此の中に献ぐる我等の祈祷を助け、信を以て爾に向ひ、我が神よ、我等を救え、我等を救へと呼ぶ人々を受け給へ。

## 【イルモス】第3調 第3歌頌

主、爾を頼む者の固めよ、爾が尊き血にて獲たる教会を堅め給へ。

## 【イルモス】第8調 第3歌頌

主、天の穹蒼（おおぞら）の至上なる造成者、教会の建立者、冀望（きぼう）の極り、信者の固、独人を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給へ。

## 【イルモス】第5調 第3歌頌

己の命にて虚しきところに地を固め、保ち難く重き者を懸けしハリストス、独仁慈にして人を愛する主よ、爾が誠めの動かざる石に爾の教会を堅く立て給へ。

## 【トロパリ】口語訳

慈しみ深い主よ、あなたは信仰の石にあなたの教会を建てられました。ここで献げられる私たちの祈祷を助け、信仰によって、あなたに向かい「我が神よ、我等を救え、我等を救え」と呼ぶ私たちを受け入れてください。

## 【イルモス】

主よ、あなたを頼む者の固め、あなたの尊い血によって獲得した教会を堅固にしてください。

## 【イルモス】

主、天の蒼穹を創造された至高き造成者、教会の建立者、希望の極致、信者の固め、唯一人を愛して下さる者よ、私をあなたの愛に固めてください。（パニヒダの時の歌です。）

## 【イルモス】

ご自分の生命によって、何もないうところに地を固め、ご自身とい途方もなく重いものを（十字架に）掛けたハリストスよ、唯一憐れみ深く、人を愛する者よ、あなたの誠めの動揺せぬ石にあなたの教会をしっかりと立ててください。



一回りして聖堂の門の前に着いたら、そこに用意されたテーブルの上に不朽体を下ろす。聖歌隊は一足先に聖堂内に入り、待機する。門の内外で掛け合いの祈りを行う。



主教(外から)「門よ、爾の首を挙げよ、世  
世の戸よ、拳がれよ、光栄の王、入らんと  
す」  
聖歌隊(中から)「この光栄の王は誰ぞ」  
再び主教「門よ、爾の首を挙げよ、世  
世の戸よ、拳がれよ、光栄の王、入らんとす」  
聖歌隊が「この光栄の王は誰ぞ」  
主教「万軍の主、彼は光栄の王なり」  
聖歌隊「万軍の主、彼は光栄の王なり」  
主教は不朽体を載いて聖堂に入る。続いて  
全員聖堂に入る。

【トロバリ】「爾は上の穹蒼(おおぞら)の美  
のごとく、爾の光栄の聖なる住居の下なる  
美しきをともに顕せり、衆人の生命、およ  
び復活たる主よ、生神女によりてこれを世  
世に堅固にし、そのうちに絶えず我等が何  
時に奉る祈禱を容れ給え」



主教はそのまま至聖所に進み、不朽体を取り、聖膏で十字を描き、金属の箱に収め、宝座内の中央に立てられた十字架型の柱内におさめます。

長輔祭が「我等またまた膝を屈めて主に祈らん」と促し、全員ひざまずいて祈ります。主教は創造主神を讃美し、この祭台の側に立つものに聖神を遣わし、その力によってイイスス・ハリストスに伏拝させてくださいと祈ります。

【重連禱】

主教はカフェドラから十字架で四方を祝福します。そのとき、世界に主の教会が建てられたことを象徴して「主憐れめよ」を各国語(日本語、スラブ語、ギリシア語、日本語)で歌います。

「いくとせも」

続いて時課。

(掲載写真は、昨年の駐日ロシア正教会成聖式の写真、児玉神父撮影のビデオから転載しました)

## 成聖式の主教聖体礼儀

!!!注意点!!!

＋主教への挨拶「イスポラ・エティ・デスポタ」

意味は「君や、いくとせも」で、主教の長寿を祈ります。主教が祝福するときは、必ず「イスポラ～」を歌います。入堂退堂時に歌われる「トン デスポティン ケ アルヒエレア イモン、キリエフィラテ、イス ポラ エティ デスポタ」も同様の意味で、「主が愛する我等の主人にして教会を司るお方、君や幾歳も」す。

＋「来たれ」のあとの「イスポラ」や神品との掛け合いの「聖なる神」はタイミングが特に大切なので、指揮に注目してください。

＋ヘルビムの途中、「アミン」は2回です。

＋今回の祝いのテーマは聖堂の「成聖」と聖堂の名である「神現」の二つです。トロパリやポロキメンも「成聖」と「神現」の両方が歌われます。

＋主教座下を囲んで参加者全員が祈りに参加できるようにと、「信経」、聖変化「親しみの捧げもの」、「天にいます」は単音で歌います。

主教祈禱 豆知識

使徒の時代から教会の中心は主教でした。司祭は主教から派遣された者です。主教祈禱にはビザンティン時代のアギアソフィア大聖堂の礼拝の形が多く残っています。骨格は司祭祈禱の場合と同じですが、ビザンティンの大聖堂の特徴である掛け合いが多く動きが複雑です。

たとえば、聖体礼儀が始まって「来たれ」まで主教は聖所中央の台(カフェドラ上)に留まり、「来たれ」で神品団とともに王門を通過して至聖所に入ります。これは皇帝と総主教を先頭に大群衆が聖堂に入っていったときの名残です。「聖なる神」も古い歌い方です。主教の唱える「葡萄園云々」の聖詠は、当時ソロの聖歌手が歌っていました。また、ヘルビムのときに主教は記憶を行います。かつてはヘルビムの直前の信者の連禱が聖体礼儀開始の大連禱だったと言われています。

「イスポラ」や「トンデスポティン」がギリシア語なのは千年前のロシア教会がビザンティンからギリシア人主教を招いていたことに由来します。

+++正教会聖歌の入門書として今も広く読まれている本です。日本の方にもわかりやすいように訳注や解説を加えてご紹介しています。+++

## 1. スティヒラ (讃頌) その2

τό στιχερόν, τά στιχηρά στιхира, стихиры

### (4) リティヤのスティヒラ

στιχηρά εἰς τήν λιτήν; стихиры на лититии  
祭日の晩課でリティヤの前に歌われるスティヒラです。今まで紹介したスティヒラと異なり、聖詠の句を含みません。このとき聖職者は至聖所から啓蒙所に出てゆきます。修道院によっては十字行を行います(教会の回りを行進する)。

### (5) 真福詞のスティヒラ

μακαρισμοί; стихиры блаженны

主日聖体礼儀で第3アンティフォンを構成する特別のスティヒラです。『真福九端』すなわち山上の垂訓(マタイ5:2-12)の句の間に挿入されます。八調経を見ると、各調(グラス)9連のスティヒラが記されています。

訳注: 日本ではスティヒラは歌われず、真福九端のみが続けて歌われます。

いままで紹介したスティヒラでは、最終節のスティヒラに「光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に、アミン」(小頌栄; Δόξα καὶ νῦν; слава и ныне)が先行します。これがさらに分割されて「光荣は・・・」に続いて最後から2番目のスティヒラ、「今も・・・」の後に最後のスティヒラ(通常生神女に関するもの)が続くこともあります。祈祷書には「光荣は」(Δόξα, слава)「今も」(καὶ νῦν, и ныне)という省略形で記載されています。

(6) このほかに単立のスティヒラ、あるいは聖詠の組み合わせに含まれない特定の聖詠に続いて読まれるスティヒラがあります。例えば祭日の早課で、第50聖詠の後に続くスティヒラです。

ここに含まれるスティヒラは特別の場合に設定され、詞の内容から名前がついています。生神女ドグマティック(θεοτοκίον δογματικόν; богородитень догматикъ)、復活スティヒラ(復活を讃美するスティヒラ ἀναστάσιμον; воскресень)、生神女讃詞(生神女を讃美するスティヒラ θεοτοκίον; богородитень)、十字架生神女讃詞(十字架の下にある生神女を讃美するスティヒラ σταυροθεοτοκίον; крестобогородитень)、十字架復活讃詞(十字架と

復活を記憶するスティヒラ σταυροἀναστάσιμον; крестовоскресень)、致命者讃詞(一人あるいは複数の致命者を記憶するスティヒラ μαρτυρικόν; мучениченъ)、至聖三者讃詞(至聖三者を讃美するスティヒラ τριαδικόν; троичен)、致命者讃詞(永眠者を讃美するスティヒラ, νεκρώσιμα; мертвеннаまたは покойна)などがあります。

(7) 最後にもうひとつ重要な11セットのスティヒラがあります。早課の福音スティヒラ\* (στιχηρά εἰς ὠθινά; стихтры евангельския)で、主日早課の11の復活福音の読みの内容と対応しています。このスティヒラは福音の読みと連動して、年間通して繰り返される11週の周期を形作っています。11個の福音スティヒラは8調のどれかで歌われます。第1の福音スティヒラから第8のスティヒラには1から8調が順次あてはめられ、9、10、11番目のスティヒラにはそれぞれ5、6、8調で歌われます。通常主日早課では、このスティヒラは讃揚のスティヒラ(凡そ呼吸あるもの)の一部として「光荣は」のあとに歌われます。奉神礼用聖歌集を見ると、このスティヒラには格別豊かで華やかなメロディがつけられています。

訳注\*八調経巻末「主日の差遣詞及び早課の自調詞即福音の讃頌」に記載しています。このほか差遣詞(エクサポスティラリー)も主日早課の11の復活福音と対応しています。  
訳注\*\*単旋律聖歌を集めた本。譜表のないネウマ記号で書かれていましたが、17世紀以降は五線譜(四角音符)に書き写されたものもあります。

スティヒラは聖歌学上でも奉神礼学上でも重要な位置を占めています。新約聖書中のできごとや聖人伝などその日のメインテーマを伝え、参拝者の心をその方向に向かわせます。ときおりメリスマ的な動きが含まれますが、大部分はシラビックあるいはネウマティックな比較的シンプルなメロディで歌われ、音楽とテキストは強く結びついています。

ある種のスティヒラでは、最後のスティヒラはドクサスティコン(δοξαστικόν; славникъ)と呼ばれます。「光荣は」(Δόξα καὶ νῦν; слава и ныне)の後に歌われるからです。平日や中小祭日にくらべて、大祭にはより華やかなメロディで歌われます。

訳注\*1音節に1つの音を当てはめて歌うのがシラビック、2-3の音を当てはめるのがネウマティック、それ以上たくさん音を当てはめた歌い方がメリスマティック。

Johan von Gardner, *Russian Church Singing*, SVS

## ホームページのご案内

### ○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>  
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

### ○ 正教会奉神礼研究 Liturgia

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy> 奉神礼や聖歌の実践資料